式　辞

草木の緑からは、清々しさだけでなく、あふれ出るエネルギーを感じる季節となりました。

　本日、保護者の皆様とともに、愛知県立犬山総合高等学校第一回入学式を挙行できますこと、教職員一同大きな喜びとするところでございます。

　まずもって、保護者の皆様方にごあいさつ申し上げます。お子様のご入学、心からお祝い申し上げます。私ども教職員は、保護者の皆様方によるお力添えを得て、お子様が心身ともに健やかでたくましく成長していけるよう、加えて、近い将来自立し、主体的によりよい社会を作っていく力を身に付けられるよう、教育活動に取り組んでまいります。なにとぞ、本校の教育活動にご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

　さて、新入生の皆さん、入学おめでとう。今日は県内の高等学校において、入学式に臨んでいる人がたくさんいます。しかし皆さんは、その多くの入学生と比べ、２つの点で「特別な存在」であると言えます。

１点目は、皆さんは「１回生である」ということです。新たな学校を自分たちの力でつくるということは、ごく限られた人しか経験できません。「犬山総合高校は、こんな学校だ」というモデルを創るのは、皆さんです。

２点目は、皆さんには「大きな使命が与えられている」ということです。犬山総合高校は、明確な目的をもって誕生しました。それは、時代や世界、地域の課題を見出し、その解決策を皆で考える、そのような力をもった生徒を育成するというものです。皆さんが身に付けた力で、自分はもちろん、多くの人々を幸せにする。つまり、皆さんは歴史や社会状況を大きく変える「チェンジメーカーとなって欲しい」という期待を背負って、今ここにいるのです。

このような話をすると、「高校生活が不安になる」という人もいるでしょう。特別な存在として期待に応えていくには、大きな苦労を伴うことがあります。多くのことを同時に進めながら、状況を冷静に分析し、「もっと、こうした方がよいのではないか」と、何度も修正を加えていく必要があります。しかも、大人に近づいていく年頃ですから、行動に伴う責任も、皆さんで負っていくことが求められます。さらに、「新たな試み」ということは、参考にできる事例が少ないということを意味します。したがって、自分たちの考えや行動が、多くの人から受け入れられるか否か、分からないという不安もつきまといます。

しかし、不安になるということは、あなたが真剣に考えている証拠です。何かに取り組んで、そこから逃げずにチャレンジしている証でもあります。時には、そんな自分を優しく誉め、励ましながら、皆で前へ前へと進んでいきましょう。

皆さん、新しい学校を創っていくというワクワク感、そして自分でやるべきことを考えて実行し、きちんと結果を出すという責任感を、十分感じ取る生活が始まります。３年間という時間を大切に遣い、着実にそして大胆にチャレンジを続け、皆さんが、大きく成長していかれることを心から期待して、式辞とします。

令和五年四月六日

愛知県立犬山総合高等学校長

森　也寸司